

三木清著「読書と人生」新潮文庫、新潮社 1974年10月30日刊を読む

## いかに 如何に読書すべきか

### 1. 読書の習慣をつくること

- (1)人は単に義務からのみ、あるいは興味からのみ、読書しうるものではない  
習慣が実に多くのことを為す
- (2)読書の習慣も早くから養わねばならぬ  
学生の時代に読書の習慣を作らなかった者はおそらく生涯読書の面白さを理解しないで終るであろう
- (3)読書の習慣を養うには、閑暇を見出すことに努めなければならない  
人生において閑暇は見出そうと思えば何処にでもあるものだ  
○読書は心に落ち着きを与える  
「落ち着きを失っている現代の生活」にとって読書をする意義は大きい

### 2. 規則的に読書をする

- (1)毎日、例外なしに、一定の時間にたとい30分にしても読書をする習慣を養うこと
- (2)かようにして20年間も継続することができれば、そのうちひとかどの学者になっているであろう
- (3)落ち着いた大学生といわれる者は、たいてい読書の習慣を有するものである

### 3. 自分に適した読書法を発明すること

- (1)多読…自分自身の読書法を見出すために先ず多く読まねばならぬ
- (2)人生は冒険である
- (3)人は多く読まなければならぬ  
一冊の本の人間にならないために、一面的な人間にならないために読書は存在  
○読書家とは一般的教養のために読書する人のこと  
単に自分の専門に関してのみ読書する人は読書家とはいわない  
専門家も一般的教養を有することによって自分の専門が学問の全体の世界において、また社会および(自分の)人生において、如何なる地位を占め、如何なる意義を有するかに就いて正しい認識を得ることができる

### 4. 何をどのように読むべきか—「その方面で最も善い本(古典)」を「系統的」に読む

- (1)古典といわれるような本…①歴史の試練を経て生き残ってきたもの  
②すでに価値の定まった本  
③決して旧くなることなく、つねに新しくつねに若々しい

(2) 古典を読むことによって人は書物の良否に対する鑑識眼を養うことができる

- ① 古典を愛しないような真の読書家はなく、古典についての教養を有しないような真の教養人はない
- ② 古典はつねに安心して読むことができ、幾度繰り返し読んでもつねに新たな利益を得ることができるもの
- ③ かように価値の定まった本を読むように心掛けねばならない

(3) 同時に新刊書も

- ① 時代の感覚に触れるため
- ② 今日の問題が何処どこにあるかを知るため
- ③ 新しい感覚をもち、新しい問題を処理するのでなければ古典も生きてこない
- 過去が生かされ伝統が甦よみがえってくるのは現代から
- 新刊書を読むのは、一種の冒険、読書においても冒険を！

## 5. 原典を読む

(1) 「古典」を読むことが大切である如く、ひとはつねに「原典」を読むように心掛けねばならぬ

(2) 解説書とは参考書とかを読むことも固より必要ではあるが、本質的には原典を中心としてこれに頼らねばならぬ

(3) 原典はつねに最も信頼し得る書物である

- ① 原典を読むこと、これを繰り返して読むこと ex. カント、ラトン
- ② 原典は人に読んでもらうのではなく自分自身で読む
- ③ 多数の参考書を読むよりも一冊の原典を繰り返し読む
- 原典は解説書よりもしばしば短い

## 6. 原書を読む

(1) 翻訳で読むよりも原書で読む

(2) ゆっくり読む、自分で考えながら読む

(3) 一つの国語はその民族の精神の現われであり、その思想の蓄積

## 7. 自分に役立ち、自分を高めてくれるような本を読む

(1) 善い本といわれるものの中で自分に適したものを読む

— 古典の中から自分に適したものを発見するように努力を—

(2) 愛読書は自分の思想の中から作られ、定まっていく

— 愛読書を有しない人は思想的に信用のおけない人である—

(3) 自分に適した善い本が決ってくれば、読書もおのずから系統立ってくる

— 即ち、それと同じ系統さかのに属する書物を、或いは、過去に遡さかのり、或は現代に降くだって読むようにすればよい—

○ 無系統な博読は濫読よみ過ぎに過ぎない

## 8. 正しく読むー正しく読まなければ善いものの価値も分らない

(1)「正しく読む」とは、自分自身で読むこと

○精密に読みこと。皮相な知識で満足しないこと、軽薄な批判者がいうことに直ちに同意しないこと

(2)正しく読むために、まずその本を所有すること

(3)その人の文庫を見れば、その人がどのような人であるかが分る

ー自分に役立つ本を揃える、そして自分に適した読書法を見出す

## 9. 本は正しく読む

(1)緩やかに読む、決して急いではない

①その本から学ぶためにも、その本を批判するためにも、緩やかに読む

②自分の身にかけようとする書物は緩やかに、どこまでも緩やかに、そして初めから終わりまで読まねばならぬ

③繰り返して読む

(2)「精読」

①繰り返して読むことは、よく理解するために必要

②左右を比較し前後を関係づけることによってよく理解することができる

③全体は読み終えたときに初めて現実的になる

(3)発見的に読む

①自分自身で何が問題をもって書物に対する

②自分で絶えず考えながら読む

③読書とは、その著者との対話。読書は思索のためのもの。発見のためのもの

○このようにして、自分自身の読書法を身にかけよ!!

## [コメント]

昭和前半(戦前)を代表する知識人・哲学者の三木清の読書論、読書の方法論。スミからスミまで参考になる、「古典」といってもよい「読書論」です。大いに参考にさせていただきます。

2023年12月15日林明夫